

株式会社 免疫生物研究所

JASDAQグロース 証券コード：4570



代表取締役社長 清藤 勉
平成28年11月17日（木）



平成29年3月期 (第35期)

第2四半期連結決算

【連結貸借対照表の概要】

単位：百万円		平成29年3月期 第2四半期連結		
			構成比	増減 (前年度末)
	流動資産	1,785	44.0%	+300
	(現預金)	(1,217)	(30.0%)	(+243)
	固定資産	2,270	56.0%	+399
資産合計		4,056	100%	+700
	流動負債	228	5.6%	+64
	固定負債	604	14.9%	+199
負債合計		833	20.5%	+263
純資産合計		3,223	79.5%	+437
負債純資産合計		4,056	100%	+700

【セグメント別売上高(診断・試薬事業)】

単位:千円	売上高	前期比	営業利益	前期比
診断・試薬	254,544	+26.0%	44,911	+173.4%

【研究用関連】

(増加要因)主力のEIA測定キットや抗体の国内外の販売数増加及び受託サービスの受注拡大並びに前期タカラバイオ株式会社からの在庫買戻しの影響

(減少要因)海外販売における円高の影響

【医薬用関連】

(増加要因)マイコプラズマ感染症の流行で、原料の販売が増加

(減少要因)牛海綿状脳症測定キットの検査対象の減少等の影響

【セグメント別売上高(遺伝子組換えカイコ事業)】

単位:千円	売上高	前期比	営業利益	前期比
遺伝子組換え カイコ	50,516	+231.3%	△115,372	悪化

(売上高)

- ・大手動物医薬品企業及び大手体外診断用医薬品企業からのタンパク質作製受託サービスの売上計上
- ・共同研究契約先からマイルストーン契約金の収入計上
- ・iPS細胞等の培養足場材の材料であるラミニン511-E8の販売を開始(株ニッピへ販売)
- ・新たに前橋研究所が稼働し、アステラス製薬(株)や(株)CUREDとの研究開発を推進

【セグメント別売上高(検査事業)】

単位:千円	売上高	前期比	営業利益	前期比
検査	43,477	△9.2%	△18,152	悪化

(増加要因)

- ・当社グループを挙げて、本格的に海外の学会展示によるプロモーション活動の展開を開始し、海外向け売上高が倍増

(減少要因)

- ・動物病院におけるコンパニオン・アニマルの診断支援サービス(Lipo TEST)は、同市場においてサービスの競合等で、受注が伸び悩み
- ・国内製薬企業からの大型案件が終了

【セグメント別売上高(化粧品関連事業)】

単位:千円	売上高	前期比	営業利益	前期比
化粧品関連	5,319	△20.3%	△8,899	改善

(増加要因)

当第2四半期より、効率的な広告活動を展開し新規顧客の獲得を開始
⇒新規ユーザー獲得後のフォローが課題

- ・リピート顧客の獲得(アウトバウンド、DM等)
- ・受注体制の構築
- ・継続ユーザーへの優待施策

(減少要因)

前期末より広告活動を停止し、効率的な広告活動の検討を行っていたため新規顧客が減少

平成29年3月期(第35期) 第2四半期連結決算

単位:千円	H28年3月期 第2四半期 (連結)	H29年3月期 第2四半期 (連結)	対前年 同期比
売上高	271,046	<u>350,181</u>	+29.2%
営業利益	△109,509	<u>△97,032</u> 前橋研究所の稼働により 研究開発費増	改善
経常利益	△106,317	<u>△108,466</u> 為替差損の拡大	悪化
親会社株主に 帰属する四半 期純利益	△39,631 投資有価証券売却益の 計上	<u>△111,191</u>	悪化

【連結キャッシュ・フロー】

単位:百万円	平成29年3月期 第2四半期 (連結)	主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	△86	(プラス要因) 売上債権の減少、減価償却費 (マイナス要因) 四半期純損失、未収消費税の増
投資活動による キャッシュ・フロー	△511	(マイナス要因) 出資による投資有価証券の取得 有形固定資産の取得
財務活動による キャッシュ・フロー	+810	(プラス要因) 新株予約権行使による収入 銀行からの新規借入
現金及び現金同等 物の期末残高	1,101	

施策と進捗状況

【診断・試薬事業】

※今期上市済、開発中の研究用試薬製品-1

・老化関連分子に対する抗体・測定系としてマウス動物モデルでの使用を目的にマウスの尿中 α -Klotho測定キットの製品化を予定

⇒7月29日、Mouse soluble α -Klotho Assay Kit - IBLを発売開始

・認知症関連タンパク質として、アミロイド β と並び重要なターゲット分子であるタウタンパク質の測定系を開発中

⇒試作品を開発し、共同研究先の海外企業との評価を進行中

・アミロイド β の中でも、神経毒性を強く有する毒性オリゴマーに対する抗体、及び測定系を開発中

⇒毒性アミロイド β 特異的測定系を開発し、共同研究と論文を発表。

11月下旬より、毒性アミロイド β 42に対する抗体を用いたELISAキットを発売開始予定

【診断・試薬事業】

※今期上市済、開発中の研究用試薬製品－2

・メタボリックシンドローム・生活習慣病関連分子に対する抗体・測定系として血糖値をコントロールするインスリンの分泌を促進するインクレチンというホルモンの測定系開発を進めてまいります。

⇒販売開始

5月27日 GLP-1, Active form (High sensitivity) Assay Kit – IBLは販売済、7月8日 Mouse, Rat GIP, Active/Total form (high sensitivity) Assay Kit – IBL、9月27日 Mouse/Rat Total Insulin (high sensitivity) Assay Kit – IBLを発売

・脂質代謝関連分子に関して、酵素活性の新規測定系の開発中

⇒LPL活性測定キットの試作品を開発し、検査会社に評価依頼中

・腎臓病関連分子に対する抗体・測定系として腎臓病の中でも特にIgA腎症と呼ばれる疾患に特異的なマーカーに対する測定系を開発中

⇒販売開始

5月27日 Gd-IgA1 (Galactose-deficient IgA1) Assay Kit – IBL、7月22日 Anti-Human Gd-IgA1(KM55) Rat IgG MoAbも発売

【診断・試薬事業】

※体外診断用医薬品で現在進行している共同研究開発

・難聴・めまいの原因を生化学的に診断できるバイオマーカー「CTP(cochlintomo-protein)」

⇒(株)コスミックコーポレーションと共同で体外診断用医薬品の承認申請に向けて、基本性能試験、臨床試験を進行中

・成人T細胞白血病(ATL)の診断に有効と考えられる関連タンパク質に対する抗体や測定系の開発中

⇒ATLの発症原因であるウイルスHTLV-1が感染した細胞に関連する分子に対する測定系を開発。試作キットを共同研究先と評価中。

【診断・試薬事業】

※体外診断用医薬品で現在進行している共同研究開発

・筋ジストロフィー患者の診断のためのバイオマーカーとして、尿中のタイチンというタンパク質に対する測定系の開発を某大学、及び研究機関との共同研究が進行中

⇒測定系が完成し、論文投稿中。先ず、次四半期に研究用試薬として上市予定。

・Muse細胞を用いた再生医療事業に関して共同研究を株式会社Clioと実施

⇒候補となる抗体が取得でき、評価を進行中。

【遺伝子組換えカイコ事業】

(研究テーマの選択と集中により、製品化の実現を目指す)・・・ 本年8月より、前橋研究所が稼働

集中テーマ

・アステラス製薬(株)との共同研究

カイコ繭由来のヒト型フィブリノゲンを原料とする医薬品の製品化を目指す

⇒継続して研究開発を実施中

・(株)CUREDとの共同研究

カイコ繭由来の抗HIV抗体による抗体医薬品の製品化を目指す

⇒継続して研究開発を実施中

【検査事業】

診断・試薬事業との営業活動を共有化

・国内外の学会に積極的共同参加

- ・日本糖尿病学会 (5月) ・欧州動脈硬化学会EAS (5月) ・米国糖尿病学会 ADA (6月)
- ・米国臨床化学学会 AACCC (7月) ・欧州糖尿病学会 EASD (9月)

・双方のマーケット市場において、販促活動を強化

⇒特に海外からの新規受託案件が増加、欧州での新規代理店とも契約

新技術による測定サービスで売上高の拡大を目指す

・リポタンパク質の「粒子サイズ」に加え「粒子数」の分析が可能

⇒終了した測定済データから「粒子数」を分析することが可能なため、既存ユーザーへの追加分析提案を実施

・ガスクロマトグラフィーを活用

⇒コレステロールバランス(吸収と合成)を調べる新規サービスを開発中

・血中遊離コリン測定サービスを開始

⇒大手検査会社とのタイアップを模索中

【化粧品関連事業】

「フレヴァン」シリーズの売上高及び利益額の拡大を目指す

・Web戦略、雑誌・新聞広告を効果的に活用

⇒第2四半期より広告施策を再開し、新規会員獲得が順調に推移

・新規ラインナップの拡充

⇒BBクリームの新色を新規ラインナップ

・群馬県を中心に量販店販売を推進

⇒大手ドラッグストアへの納入が決定

「ネオシルク®-ヒトコラーゲン」の売上高拡大を目指す

・化粧品原料展への参加や「ネオシルク®-ヒトコラーゲン」の良さを認知させるための講演会を継続的に実施

⇒来年1月開催の化粧品原料展へ出展及び講演会開催が決定



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。